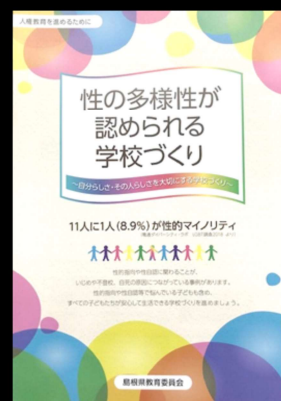


# 性の多様性が認められる学校づくり②

## 教職員にできること



島根県教育庁人権同和教育課



みなさん、こんにちは

性の多様性が認められる学校づくり②

教職員にできること 編

島根県教育庁人権同和教育課よりお伝えします。

この動画を視聴される際に、次の2つをご準備ください。

1つめは、画面に出ている、リーフレットです。島根県教育庁人権同和教育課のホームページからもダウンロードできます。  
2つめは、この動画の内容を示したレジュメです。画面に出てくるものを反映していますのでご活用ください。

さて、性の多様性が認められる学校づくり①性のあり方・考え方編では、性のあり方は多様であり人それぞれであること、そして、性の多様性が認められる学校づくりを進める必要性についてお話ししました。●

## ◎ねらい

性の多様性が認められる学校づくりのために、教職員が進めていく配慮や支援について考える



この動画では、性のあり方・考え方編をふまえ、学校ではどのようなことを進めていくことができるのか。教職員が進めていく配慮や支援について、考えてみましょう。●

## ◎流れ

- 1 性的指向・性自認の悩みや不安について
- 2 教職員が配慮や支援を進めていくために
  - 教職員の意識
  - 児童生徒からの相談があったとき
  - 環境づくり
- 3 今後の取組に向けて



この動画の流れです。

- 1 性的指向・性自認の悩みや不安について
- 2 教職員が配慮や支援を進めていくために
- 3 今後の取組に向けて

という内容でお話します●

# 1 性的指向・性自認の悩みや不安について ～どのような悩み・不安があるでしょう？～



まずはじめに、性的指向・性自認の悩みや不安について、どのようなものがあるのでしょうか？のちほど、リーフレットの内容にもふれながら、話を進めていきます。●

## ◎考えてみましょう

Q あなたの学校で、男女によって区別されているもの・ことには、何がありますか？



まずは考えてみましょう。

あなたの学校において男女によって区別されているものやことには何がありますか？●動画を一時停止して、2分程度時間をとり、レジユメに書き出してみましょう。

いかがでしたか。

学校種によって違いがあるかもしれませんが、それぞれの学校で男女によって分けているものやことがあるものです。複数の方でこの動画を見ている場合は、再度動画を一時停止して、他の人と情報交換をしてみてください。



## 性の多様性に関わる思い(悩み)と支援・配慮

### 男女別を前提とした しくみ・制度

自認する性と違う制服を着るのは嫌だ。

座席配置が男女で固定してあるのは苦痛だなあ。

男女で呼び方を変えられるのは何か変じゃない？

アンケート用紙に男女を記入しないといけないのは何でだろう…。

「男子だから」「女子なのに」という決めつけはやめて欲しいなあ。

自認する性とは違うトイレは使いたくない…。

更衣場所が男女別になっているのは使いにくいなあ。

体育や部活動などは自認する性の活動に参加したいなあ。

宿泊研修、お風呂どうしよう…。

学校の中には、男女別を前提としたしくみや制度があります。誰もが安心して生活できる制度になっているか、振り返ってみましょう。

#### 全体的な対応の検討

- ・誰もが自由に制服を選択できるようにする。
- ・男女同じデザインの制服を採用する。

- ・男女別を基準にしない配置にする。

- ・性別によって呼び方を変えないようにする。

- ・不必要な性別記入欄をなくし、必要な場合は性別記入を求めないようにする。

- ・性別による決めつけがないか、振り返ってみる(「らしさ」を求めない)。

#### 個別の配慮

- ・本人と話し合った上で、自認する性に対応したトイレや多目的トイレの利用を認める。

- ・本人と話し合った上で、個別に使用できる部屋の利用を認める。

- ・体育の授業では、本人と話し合った上で、別メニューで行う。
- ・部活動では、本人及び学校で協議して所属を検討する。

- ・本人と話し合った上で、入浴時刻を他の人とずらす。

## リーフレットの中面を開いてみましょう

制服

座席

呼称

アンケート

決めつけ

トイレ

更衣室

体育・部活動

宿泊研修



もしかすると、今みなさんにあげてもらった男女による区別に、悩みがあったり、不安や苦痛を感じていたりする児童生徒がいるかもしれません。●リーフレット中面の「男女別を前提としたしくみ・制度」の部分を開いてください。画面に示した部分です。

緑とオレンジの付箋型のデザインで、性の多様性に関わる思い(悩み)の一例を記載していますので、上から順に見ていきましょう。

- 制服について、「自認する性と違う制服を着るのは嫌だ」と感じている児童生徒、
- 座席配置の固定に苦痛を感じている児童生徒、
- 「くん」・「さん」など、男女で呼び方を変えられることや、
- アンケートの男女記入、そして、●「男子だから」・「女子なのに」というような性別による決めつけ、
- 自認する性とは違うトイレは使いたくない、
- 更衣場所が男・女別の「2つだけ」に分けてあって使いにくいと感じている児童生徒、
- 体育や部活動などは、自認する性の活動に参加したい、
- また、●宿泊研修では、人とお風呂に入らなければいけないけど、どうしよう？と思っているなど、

いろいろな場面でさまざまな思いをもち、悩んでいる児童生徒がいることが考えられます。●

## 性の多様性に関わる思い(悩み)と支援・配慮

### 男女別前提としたしくみ・制度

- 自認する性と違う制服を着るのは嫌だ。
- 服装規定が男女で設定してあるのは苦痛だなあ。
- 男女で呼び方を変えられるのは何か変じゃない？
- アンケート用紙に男女を記入しないといけないのは何でだろう…。
- 「男子だから」「女子なのに」という決めつけはやめて欲しいなあ。
- 自認する性と違うトイレは使いたくない…。
- 更衣室が男女別になっているのは使いたくないなあ。
- 体育や部活動などは自認する性の活動に参加したいなあ。
- 密着研修、お風呂どうしよう…。

学校の中には、男女別を前提としたしくみや制度があります。誰もが安心して生活できる制度になっているか、振り返ってみましょう。

- 全体的な対応の検討**
  - 誰もが自由に制服を選択できるようにする。男女別デザインの利用を検討する。
  - 男女別を前提にしない服装にする。
  - 性別によって呼び方を変えないようにする。
  - 必要な性別記入欄をなくし、必要な場合は性別記入を求めないようにする。
  - 性別による決めつけがないか、振り返って考える(らしさ)を求めない。
- 個別の配慮**
  - 本人と話し合った上で、自認する性別に対応したトイレや多目的トイレの利用を認める。
  - 本人と話し合った上で、個別に使用できる部室の利用を認める。
  - 体育の授業では、本人と話し合った上で、別メニューで行う。
  - 密着研修では、本人及び学校で協議して配慮を検討する。
  - 本人と話し合った上で、入浴時間を他の人とずらす。

### 自分って……？ ～とまどい～

- 私って男の子？女の子？決めなきゃいけないの？
- 同性を好きになっただけ、私って変なのかな？
- 男っぽい(女っぽい)身体に成長していくのがつらい。

自分や性について、不安を抱えている子どももいます。成長段階や時期により、性的指向や性自認がゆらぐこともあることを理解しておきましょう。

- 柔軟な受け止めの構え**
  - 性的指向や性自認に関わる自覚や悩みは、人によって時期であったり長年に渡ったりするなど異なります。教職員は多様な性があることをよく理解して、受け止め止める姿勢をもちましょう。

### 周りはどう思っているのかなあ？

- 変な子だと思われていたらいやだなあ…。
- 同性愛をネタにしてからかい合うような教室の雰囲気は悪くない。ここには近づかないなあ。
- 私を特別視して欲しくない…。

性の多様性ありのままに受け入れられる雰囲気づくり、集団づくりに努めましょう。

- 集団・雰囲気づくり**
  - 性的指向や性自認を尊重し、同性愛者や性別に異なる性のあることをからかうような行動がなくなるように丁寧な指導や集団づくりをしていきましょう。からかうような発言や行動は厳禁しましょう。
- 児童生徒の理解**
  - 「からだの性別に異性恋がある人もいい」「恋愛対象は異性だけとは限らない」など、発達段階に応じた理解を子どもにも進めましょう。

### 相談しづらいなあ……

- 打ち明けたら(カミングアウトしたら)、相手が離れていってしまうかも…。
- 先生に相談したら、先生はちゃんと受けとめてくれるのかな？
- 親や家族には知られたくないなあ。



相談することは、本人にとってとても勇気のあることです。相談しやすい雰囲気づくり、遠慮なく相談できるような研修等を進めておくことも大切です。

- 相談体制**
  - 子ども一人一人の思いを認め、気軽に安心して相談できる雰囲気づくりに注力し、学校全体で支える体制をつくりましょう。
  - 相談(告白:カミングアウト)する相手は、本人が「相談しても大丈夫な人」と思った相手といふことです。相談相手本人の了解なく、第三者(親や家族を含む)に伝えること(漏洩:アウティング)がないようにしましょう。
  - 相談を受けたら、丁寧な対応をしましょう。すぐに決断での返答ということではなく、本人や周囲の相談をしながら丁寧に進めましょう。
- 家族づくり**
  - 子どもたちのLGBTQ+を含めた多様性に対する理解を深め、子どもたちが安心して相談しやすい雰囲気をつくっていきましょう。
  - 性の多様性にかかわるLGBTQ+表示や書籍の紹介などを発行し、関心を高めるようにしましょう。相談のしやすさにもつながります。
- 教職員の理解**
  - 性の多様性について、研修を行うなど、教職員の理解を深め、誰もが相談しやすくなるようにしていきましょう。
  - アウティングは、要緊の場合を除くべきです。アウティングの危険性について十分に理解していきましょう。

### このページの奥方について

- 性的指向に関わる思い
- 性自認に関わる思い
- 性的指向・性自認両方に関わる思い
- 対応のポイント
- 配慮の例
- 支援の例



次に、リーフレットのの中面、左下の部分を見てください。画面上では拡大して示します。●

## とまどい

自分って……？  
～とまどい～

私って男の子？女の子？決めなきゃいけないの？

同性を好きになったけど、私って変なのかな？

男っぽい(女っぽい)身体に成長していくのがつらい。

同性を好きになったけど、私って変なのかな？

女っぽい身体に成長していくのがつらい。



児童生徒のとまどいです。●同性を好きになったけど、私って変なのかな？とか、●こころの性が男性である子が、女っぽい身体に成長していくのがつらい、などと、他の人とは違う自分の状態に、とまどっている場合があります。●



## 性の多様性に関わる思い(悩み)と支援・配慮

### 男女別前提としくみ・制度

- 自認する性と違う制服を着るのは嫌だ。
- 服装規定が男女で設定してあるのは苦痛だなあ。
- 男女で呼び方を変えられるのはおかしくないか？
- アンケート用紙に男女を記入しないとイケないの何だろう…。
- 「男子だから」「女子なのに」という決めつけはやめて欲しいなあ。
- 自認する性と違うトイレは使いたくない…。
- 更衣室が男女別になっているのは使いたくないなあ。
- 体育や部活動などは自認する性の活動に参加したいなあ。
- 密着研修、お風呂どうしよう…。

学校の中には、男女別を前提としたしくみや制度があります。誰もが安心して生活できる制度になっているか、振り返ってみましょう。

#### 全体的な対応の検討

- 誰もが自由に制服を選択できるようにする。男女別デザインの利用を検討する。
- 男女別を前提にしない服装にする。
- 性別によって呼び方を変えないようにする。
- 必要な性別記入欄をなくし、必要な場合は性別記入を求めないようにする。
- 性別による決めつけがないか、振り返ってみる(らしさ)を求めない。

#### 個別の配慮

- 本人と話し合った上で、自認する性別に対応したトイレや多目的トイレの利用を認める。
- 本人と話し合った上で、個別に使用できる部服の利用を認める。
- 体育の授業では、本人と話し合った上で、別メニューを行う。
- 部活動では、本人及び学校で協議して所属を検討する。
- 本人と話し合った上で、入浴時間を他の人とずらす。

### 自分って……？ ～とまどい～

- 私って男の子？女の子？決めなきゃいけないの？
- 同性を好きになっただけ、私って変なのかな？
- 男っぽい(女っぽい)身体に成長していくのがつらい。

自分の性について、とまどいや不安を抱いている子どもがいます。成長の過程や時期により、性的指向や性自認がゆらぐこともあることを理解しておきましょう。

#### 柔軟な受け止めの考え

- 性的指向や性自認に関わる自覚や悩みは、人によって時期であったり長年に渡ったりするなど異なります。教職員は多様な性があることをよく理解して、受け止める柔軟な姿勢をもちましょう。

### 周りはどう思っているのかなあ？

- 変な子だと思われていたらいやだなあ…。
- 同性愛をネタにしてからかい合うような教室の雰囲気は悪くないかな。ここには近づかないなあ。
- 私を特別視して欲しくない…。

性的多様性ありのままに受け入れられる環境づくり、集団づくりに努めましょう。

#### 集団・雰囲気づくり

- 性的指向や性自認を尊重し、同性愛者や性別に違和感のある人などをからかうような言動がなくなるように丁寧な集団づくりをしていきましょう。からかうような発言や言動は厳禁しましょう。

#### 教職員への理解

- 「からだの性別に違和感がある人いるし」「恋愛対象は異性だけとは限らない」など、発達段階に応じた理解を子どもにも進めましょう。

### 相談しづらいなあ……

- 打ち明けたら(カミングアウトしたら)、相手が悪化していきちゃうかも…。
- 先生に相談したら、先生はちゃんと受けとめてくれるのかな？
- 親や家族には知られたくないなあ。



相談することは、本人にとってとても勇気のあることです。相談しやすい雰囲気づくり、環境づくりを進めるとともに、どの教職員でも相談に対応できるように研修等を進めておくことも大切です。

#### 相談体制

- 子ども一人一人の思いを認め、気軽に安心して相談できる雰囲気づくりに注力しましょう。学校全体で支える体制をつくりましょう。
- 相談(告白:カミングアウト)する相手は、本人が「相談しても大丈夫な人」と思った相手といことです。相談相手本人の了解なく、第三者(親や家族を含む)に伝えること(漏洩:アウティング)がないようにしましょう。
- 相談を受けたら、丁寧な対応をしましょう。すぐに決断での対応ということではなく、本人や周囲と相談しながら丁寧に進めましょう。

#### 環境づくり

- 子どもたちのLGBTQ+を含めた多様性に対する理解を深め、子どもたちが気軽に相談しやすい雰囲気を作っていきます。
- 他の多様性にかかわるLGBTQ+表示や標識の紹介などをを行い、関心をもたせましょう。標識のしやすさにも注力していきます。

#### 教職員への理解

- 性的多様性について、研修を行うなど、教職員の理解を高め、誰もが相談しやすくなるようにしていきましょう。
- アウティングは、要緊の場合自認につながる場合があります。アウティングの危険性について十分に理解していきましょう。

### このページの奥方について

- 性的指向に関わる思い
- 性自認に関わる思い
- 性的指向・性自認両方に関わる思い

- 対応のポイント
- 配慮の例
- 支援の例



次に、リーフレット中面の右上をご覧ください。画面上でも拡大して示します。●

## 周りからどう思われているか

周りはどう思っているのかなあ？

変な子だと思われていたらいやだなあ…。

同性愛をネタにしてからかい合うような教室の雰囲気には耐えられない。ここには居づらいなあ。

私を特別視して欲しくない…。

変な子だと思われていたらいやだなあ…。

同性愛をネタにしてからかい合うような教室の雰囲気には耐えられない。ここには居づらいなあ。



周りからどのように思われているかの不安です。  
例えば、●自分が周りと違うので、「変な子だと思われていたらいやだなあ」とか、●同性を好きになった子が、同性愛をネタにして、からかいあう合う教室の雰囲気には、自分もからかわれる対象になるかもしれないと、居づらさを感じている場合があります。●

## 性の多様性に関わる思い(悩み)と支援・配慮

### 男女別前提とし しくみ・制度

- 自認する性と違う制服を着るのは嫌だ。
- 服装規定が男女で設定してあるのは苦痛だなあ。
- 男女で呼び方を変えられるのはおかしくない?
- アンケート用紙に男女を記入しないとイケないのは何だろう…
- 「男子だから」「女子なのに」という決めつけはやめて欲しいなあ。
- 自認する性と違うトイレは使いたくない…
- 更衣室が男女別になっているのは使いたくないなあ。
- 体育や部活動などは自認する性の活動に参加したいなあ。
- 密着研修、お風呂どうしよう…

学校の中には、男女別を前提としたしくみや制度があります。誰もが安心して生活できる制度になっているか、振り返ってみましょう。

- 全体的な対応の検討**
  - 誰もが自由に制服を選択できるようにする。男女別デザインの制服を採用する。
  - 男女別を基準にしない服装にする。
  - 性別によって呼び方を変えないようにする。
  - 必要な性別記入欄をなくし、必要な場合は性別記入を求めないようにする。
  - 性別による決めつけがないか、振り返って考える(らしさ)を求める。
- 個別の配慮**
  - 本人と話し合った上で、自認する性別に対応したトイレや多目的トイレの利用を認める。
  - 本人と話し合った上で、個別に使用できる部室の利用を認める。
  - 体育の授業では、本人と話し合った上で、別メニューを行う。
  - 部活動では、本人及び学校で協議して所属を検討する。
  - 本人と話し合った上で、入浴施設を他の人とずらす。

### 自分って……? ～とまどい～

- 私って男の子?女の子?決めなきゃいけないの?
- 同性を好きになっただけ、私って変なのかな?
- 男っぽい(女っぽい)身体に成長していくのがつらい。

自分の性について、とまどいや不安を抱いている子どももいます。成長の過程や時期により、性的指向や性自認がゆらぐこともあることを理解しておきましょう。

- 柔軟な受け止めの構え**
  - 性的指向や性自認に関わる自覚や悩みは、人によって時期であったり長年に渡ったりするなど異なります。教職員は多様な性があることをよく理解して、受け止め止める姿勢をもちましょう。

### 周りはどう思っ ているのかなあ?

- 変な子だと思われていたらいやだなあ…
- 同性愛をネタにしてからかい合うような教室の雰囲気は耐えられない。ここには居づらないなあ。
- 私を特別視して欲しくない…

性の多様性ありのままに受け入れられる雰囲気づくり、集団づくりに努めましょう。

- 集団・雰囲気づくり**
  - 性的指向や性自認を尊重し、同性愛者や性別に異なる性のあることを分らないよう配慮がなされるように丁寧な指導や集団づくりにしていきましょう。からかうような発言や雰囲気は許容しなさいましょう。
- 児童生徒の理解**
  - 「からだの性別に異性恋がある人もいい」「恋愛対象は異性だけとは限らない」など、発達段階に応じた理解を子どもにも進めましょう。

### 相談しづらいなあ……

- 打ち明けたら(カミングアウトしたら)、相手が離れていってしまうかも…
- 先生に相談したら、先生はちゃんと受けとめてくれるのかな?
- 親や家族には知られたくないなあ。



相談することは、本人にとってとても勇気のあることです。相談しやすい雰囲気づくり、環境づくりを進めるとともに、どの教職員でも相談に対応できるように研修等を進めておくことも大切です。

- 相談体制**
  - 子ども一人一人の思いを認め、気軽に安心して相談できる雰囲気づくりを日頃から始め、学校全体で支える体制をつくりましょう。
  - 相談(自由:カミングアウト)する相手は、本人が「相談しても大丈夫な人だ」と思った相手といふことです。相談相手本人の了解なく、第三者(親や家族を含む)に伝えること(漏洩:アウティング)がないようにしましょう。
  - 相談を受けたら、丁寧に話を聞きましょう。すぐに判断や受診ということではなく、本人や相談と相談しながら丁寧に進めましょう。
- 環境づくり**
  - 子どもたちのLGBTを含む多様性に対する理解を深め、子どもたちが安心して相談しやすい環境を整えていきましょう。
  - 子どもの権利にかかわるLGBT—表示や権利の場などを行い、関心を高めるようにしましょう。相談のしやすさにもつながります。
- 教職員の理解**
  - 性の多様性について、研修を行うなど、教職員の理解を高め、誰もが相談を受けやすいようにしていきましょう。
  - アウティングは、要時の場合自認につながります。アウティングの危険性について十分に理解しておきましょう。

### このページの奥方について

- 性的指向に関わる思い
- 性自認に関わる思い
- 性的指向・性自認両方に関わる思い

- 対応のポイント
- 配慮の例
- 支援の例



最後に、リーフレット中面の右側真ん中をご覧ください。画面上でも拡大します。●

## 相談のしづらさ

相談しづらいなあ……

打ち明けたら（カミングアウトしたら）、  
相手が離れていってしまうかも……。

先生に相談したら、先生はちゃんと受けとめて  
くれるのかな？

親や家族には知られたくないなあ。

打ち明けたら、相手  
が離れていってしま  
うかも…。

先生に相談したら、  
先生はちゃんと受け  
とめてくれるのか  
な？

親や家族には知られ  
たくないなあ。



相談のしづらさです。●友達などの誰かに打ち明けたら、離れていってしまうかもしれない、とか、●先生に相談したら、ちゃんと受けとめてくれるのかな… という不安や、●親や家族には、知られたくないという思いがある、などが考えられます。

これらは、あくまでも一例にすぎませんが、誰にも打ち明けた  
り相談したりすることができずに、自分だけで抱え込んでいる  
場合があります。●

性的指向・性自認についての悩みや不安をもつ児童生徒がいる



性の多様性が認められる学校づくり



誰もが安心して生活できる学校づくり



それでは、画面に沿って話を進めます。

ここまで、児童生徒の性的指向や性自認についての悩みや不安を、少し具体的に見てきました。悩みや不安をもつ児童生徒がいるかもしれないということを前提として、●性の多様性が認められる学校づくりを進めていく必要があります。

そして、性の多様性が認められる学校づくりは、●誰もが安心して生活できる学校づくりにつながることを、動画①でもお話ししました。

それでは、●性の多様性が認められる学校づくりは、どのように進めていくことができるのでしょうか？●

## 2 教職員が配慮や支援を進めていくために ～どのように進めていくことができるのか？～

◎教職員の意識

◎児童生徒から相談があったとき

◎環境づくり



教職員が配慮や支援を進めていくために  
どのように進めていくことができるのか、  
教職員の意識、児童生徒から相談があったとき、環境づくり、  
の3つの点について、基盤となることについて話します。●

## ◎教職員の意識

### ○教職員からはじめましょう

「多様な性のあり方がある」

=性のあり方は人それぞれという認識をもつ

「知ること」から

困っている児童生徒の様子に「気づくこと」

さらに配慮・支援「できること」は何か？



まず、重要なポイントは性の多様性が認められる学校づくりを進めていくという教職員の意識です。教職員から始めましょう

具体的には、

●「多様な性のあり方がある」という認識をもちましょう。動画①で話しましたが、性のあり方は人それぞれであるという認識で、日々の児童生徒とのかかわりや授業等の学校活動を行うことが大切です。教職員みんなが共通した認識をもつことが大切です。

●そして、教職員が「知ること」から始め、困っている児童生徒の様子に「気づくこと」。さらに配慮・支援「できること」は何かと考えていきましょう。

繰り返しになりますが、教職員の意識が、もっとも重要なポイントになります。●

## ◎児童生徒から相談があったとき

### ○相談の受けとめ

もし、あなたが性に関する相談を受けたら  
何と答えますか？

例：「実は、カラダの性とココロの性に  
違和感があります」



●もし、あなたが児童生徒から、性に関する相談を受けたら何と答えますか？例えば、「実は、カラダの性とココロの性に違和感があります」という内容の相談を受けたら、どのように答えますか？

相談されても困るなあ、と思われる方もあるかもしれません。





## ◎児童生徒から相談があったとき

### ○相談の受けとめ

#### 大げさな反応

こんな相談をする子は他にいないんだ。

やっぱり私は変な子なんだ。

相談者の不安を大きくする場合もある



ですが、相談を受けたときに、驚くなどの、ことさらに大げさな反応をされると、相談者は、●こんな相談をする子は他にいないんだ、とか、●やっぱり私は変な子なんだ などと思うことにつながるおそれがあります。●相談者の不安を大きくしてしまうかもしれません。●

- ◎児童生徒から相談があったとき
- 相談の受けとめ

ありのままを受けとめる

「そうなんだ」

「話してくれてありがとう」

安心感

+ 「何か困っていること、私にできることがあったら、いつでも言ってね」



ですので、本人の相談や思いをありのままに受けとめることが大切です。

次に示す受け答えは一例ですが、

●「あ、そうなんだ」、●「話してくれてありがとう」などと、その人自身を受けとめてください。

少々軽い感じに聞こえたかもしれませんが、他の相談とは違う特別なこととして受けとめた という印象を与えないようにすることがポイントです。

そして、●「何か困っていること、私にできることがあったら、いつでも言ってね。」と、付け加えるといいです。

相談者が、これからも安心して相談できる、●安心感につながります。●

## ◎児童生徒から相談があったとき

### ○相談を受けたときのポイント

なぜ、相談をしてきたのでしょうか？

- ・一人で抱えきれず、誰かに聞いてほしい
- ・本人にもわからない、どうしたらよいかわからない

「すぐに何かしてほしい」というわけではない場合もある



では、実際に相談を受けたとして、相談をしてきた児童生徒は、なぜ相談をしてきたのでしょうか？相談をしてきた理由も大切です。

性的マイノリティの人の中には、●自分の悩みを一人で抱えきれず、誰かに聞いてほしいから話した、とか、●自分でもわからない、どうしてよいかわからない、不安だから相談した、という人もいます。

●すぐに何かしてほしいというわけではない場合もあります●

## ◎児童生徒から相談があったとき

### ○相談を受けたときのポイント

大切なのは、

「本人が何に困っているか」

「本人が何を望んでいるか」

本人の思いを丁寧にきく



ですので、相談を受けたときに大切なことは、

●相談者本人が何に困っているか、本人が何を望んでいるかとい  
うことです。

●本人の思いを受けとめたうえで、何に困っているのか、何を  
望んでいるかについて、丁寧に聞きましょう。●

◎児童生徒から相談があったとき

○相談者への配慮

「いつ」「誰に」カミングアウト（告白）  
するかは、本人が決めること

他の人への相談や告白を勧めることなどは  
必要のないこと



本人の思いを聞いたあと、相談者へ配慮することがあります。

●「いつ」「誰に」カミングアウト（告白）するかは、本人が決めることです。ですので、カミングアウトを受けた（相談を受けた）教職員が、「クラスメイトに相談してみたら？」などのように●他の人への相談や告白を勧めることなどは必要のないことです。●

## ◎児童生徒から相談があったとき

### ○相談者への配慮

親や家族には知ら  
れたくないなあ。

相談を受けたあと、**他の教職員や保護者に  
伝える場合、本人の了承が必要**

⇒ **アウトティング（暴露：本人の了承なく、  
第三者に性的指向・性自認のことを伝える）**は、**最悪の場合、自死にもつながる**

**丁寧な相談（伝えてもよいか？）**



●また、相談を受けたあと、相談者の性的指向・性自認について、他の教職員や保護者に伝える場合、本人の了承が必要です。性的マイノリティの人のなかには、●親や家族には、身近だからこそ自らの性のことについて相談しない人もいます。

●本人の了承なく第三者に性的指向・性自認のことを伝えることをアウトティング（暴露）といますが、アウトティングは、最悪の場合、自死につながることもあります。

●情報共有について、「誰に伝えてもよいか」ということも本人と丁寧に相談しながら進めましょう。●

## ◎児童生徒から相談があったとき

### ○相談者が相談をする相手

相談する相手は、  
本人が「**この人なら大丈夫**」と選んだ人

同性を好きになったけど、私って変なのかな？

女っぽい身体に成長していくのがつらい。

言いにくい、話しづらい、話す勇気がある



さて、相談者が相談をする相手について、

●相談者が相談する相手は、「この人なら相談しても大丈夫だ」

と選んだ人だということを念頭においてください。

先程リーフレットで、性に関する児童生徒の思いや悩みの例を見てもらいましたが、

●同性を好きになったことや、●こころの性とからだの性が合わないことなどは、●言いにくく、話しづらく、話すのに勇気のいることです。

逆に考えてみると、こうした言いにくいことや話しづらいことは、話しても責めない人、聞いてくれる人など、安心して相談できる人に相談したいものです。

あなたに相談してきた人は、あなたに話しても「大丈夫だ」と思ったから相談しにきたということです。●

## ◎児童生徒から相談があったとき

相談のしやすさ→児童生徒との関係性も大切

先生に相談したら、先生は  
ちゃんと受けとめてくれるの  
かな？

日頃から話をきく姿勢  
相談しやすい関係・雰囲気づくり

誰もが相談にのることができる体制づくり



また、相談のしやすさには、児童生徒との関係性も大切です。

●先生に相談したら、ちゃんと受けとめてくれるかなあ？

相談のしやすい関係性があれば、児童生徒のこのような不安も少なく、相談してくれる場合が増えてきます。忙しい毎日とは思いますが、

●「いつでも話を聞くよ」という受容的な雰囲気など、日頃から話をきく姿勢を大切にしながら児童生徒にかかわり、相談しやすい雰囲気・関係づくりを進めましょう。

そして、●誰もが相談にのることができる体制をつくりましょう。



## ◎環境づくり

### ○相談しやすくするために

書籍・ポスター等を展示・掲示する

レインボーフラッグやリボン  
を飾る、教職員が身に着ける



関心のある  
人がいる

理解してくれ  
る人がいる

相談してみ  
ようかな



次に、環境づくりです。相談しやすくするために、  
校内のさまざまなところに、

●書籍・ポスター等を展示したり掲示したり、●また、レイン  
ボーフラッグやリボンを飾ったり、教職員が身に着けたりする  
方法があります。

このような展示や掲示などによって、この学校には性の多様性  
について●関心のある人がいる、●理解してくれる人がいる、  
それなら●相談してみようかな、と児童生徒が感じるようにつ  
ながっていきます。実際に書籍やポスターなどがきっかけで先  
生に相談できた、という児童生徒がいた例もあります。●

## ◎環境づくり

○学校で、男女によって区別されているもの・  
ことの見直し

→男女別のしくみや制度を**すべて変えること**  
**が目的ではない**

そのしくみ・制度は…

なぜ必要なのか？  
本当に必要か？  
違う方法はないか？

**見直す**



環境づくり2つめに、学校で、男女によって区別されているものやことの見直しも挙げられます。

この動画の最初のところで、みなさんにもご自身の学校についてふりかえってもらいました。

●ただし、男女別のしくみや制度をすべて変えることが目的ではありません。●そのしくみや制度は、なぜ必要なのか？本当に必要なのか？ 違う方法はないか？など、●見直してみることが大切です。見直してみたうえで、不要なことや、別の方法でも可能なことであれば、しくみ・制度をなくしたり、変更したりする必要があります。

しかし、男女別の方が合理的であれば、そのままにした方がよい場合もあるかもしれません。

それぞれの学校で見直してみましよう。●

## ◎環境づくり

- 学校で、男女によって区別されているもの・  
ことの見直し
  - ・児童生徒の性的指向・性自認に関する悩みや不安の軽減につながる
  - ・性の多様性が認められる学校づくりを進める教職員の姿勢が、性の多様性を認め合える児童生徒を育むことにつながる



男女によって区別されているものやことを見直すことで、

- 児童生徒の性的指向・性自認に関する悩みや不安の軽減につながります。
- また、性の多様性が認められる学校づくりを進める、教職員の姿勢が、性の多様性を認め合える児童生徒を育むことにつながります。●

### 3 今後の取組に向けて



それでは、今後の取組に向けて、お話しします。●

## 教職員の意識 環境づくり…

支援の「スタート」にすぎない

⇒ 学校全体の理解



ここまで、教職員の意識や環境づくりなどについて話をしてきました。実は、こうした取組は、●支援の「スタート」にすぎません。

●教職員や児童生徒も含めた学校全体の理解も大切です。●

## 性の多様性が認められる雰囲気

- ・ スラックスの制服を着用している女子生徒
- ・ 女子と一緒に遊ぶことを好む男子児童
- ・ 男子同士で手をつないで歩く生徒 など



**特別視**していませんか？



学校で、性の多様性が認められる雰囲気について、  
例えば、●スラックスの制服を着用している女子生徒、●女子  
と一緒に遊ぶことを好む男子児童、●男子同士で手をつないで  
歩く生徒など、このような児童生徒がいることを、

●特別視していませんか？●

教職員の意識を高めること  
環境づくりをスタートとして  
→学校全体の理解を進める

性の多様性が認められる学校づくり

まずは教職員から  
→何からどのように始めますか？



教職員の意識を高めることや環境づくりをスタートにして、学校全体の理解を進めましょう。●性の多様性が認められる学校づくり、まずは教職員からです。  
皆さんの学校では、何からどのように始めますか？●

## ◎研修例・・・あなたの学校の次の一歩は何か？

### ①個人ワーク

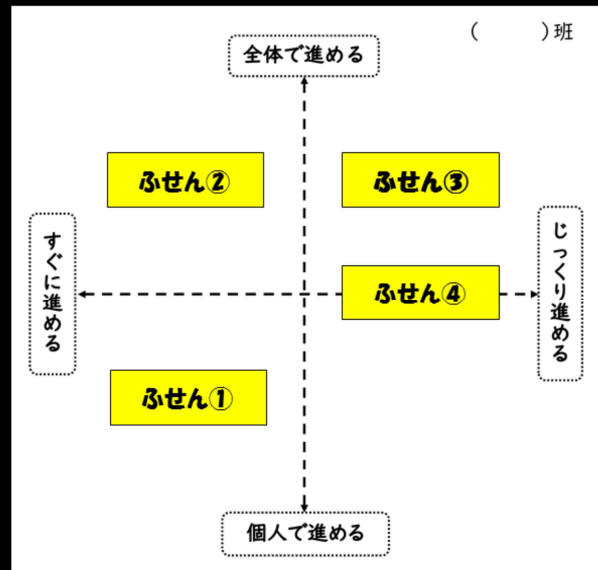
ふせんに「学校ででき  
そうなこと」を書く

### ②グループワーク

右のシートをもとにふ  
せんワークをする

### ③全体共有

意見交換をし、取組  
の検討につなげる



最後に、校内研修の例を紹介します。

あなたの学校の次の一歩は何か？と題して、性の多様性が認められる学校づくりのために、何ができるかを、校内で協議・検討するものです。それでは進め方を説明します。

●まず、個人で、学校でできそうなことをふせん1枚に1つずつ記入します。

●次に、さきほど個人で書いたふせんを、グループで画面のような協議シートに貼って協議する、ふせんワークをします。ふせんの貼り方について、個人ですぐに進められそうな内容は、●ふせん①のところへ、全体ですぐに進められそうな内容は●ふせん②のところへ、全体でじっくりと進める必要があると思う内容は、●ふせん③のところへ、はっきりしないものは●ふせん④のようにまたがってもかまいません。

●最後に、グループごとに発表するなどして、全体で意見交換を行います。

このワークにより、あなたの学校で、すぐに取りかかれそうなことや、じっくり検討していきたいことなどがわかり、進めていくことの優先順位等が見えてきやすくなります。

以上で、性の多様性が認められる学校づくり②  
教職員にできること 編を終わります。

本動画やリーフレットを参考に、性の多様性が認められる学校づくりを進めていただきますようお願いします。

ご視聴ありがとうございました。 ●